インフルエンザの予防接種

高齢者（65歳以上）向け　きょう1日から1月31日まで　開始

60歳～64歳で希望の方　医師とご相談ください

市では、12月1日から高齢者の方を対象とするインフルエンザ予防接種を開始します。

接種希望の方は、委託医療機関に備え付けの説明書を読み効果や副反応について十分理解したうえで接種を受けましょう。

▽対象　接種時65歳以上の市民の方　▽接種回数　1回　▽接種期間　12月1日（土）～平成14年1月31日（木）　▽接種料　1000円。ただし、生活保護を受けている方と、市民税非課税世帯に属する方は、免除となりますので、医療機関の窓口で、証明となるものを提示してください。

※接種時60歳～64歳で、心臓、腎臓、呼吸器等に疾患のある方も右記料金で接種できる対象となる場合がありますので、希望の方は、医師とご相談ください。

※接種を行う医療機関については、保健相談センターまで。

問　同センター（☎235・7880）。

思いつくままに

叱らない大人がつくった産物

先日、有馬中学校教師時代の同窓会がありました。幹事の一人から「ぼくが中学生になって初めて殴られた先生に〝今日のことをお父さんに話せ〟と言われたので、言われた通りに話したら、今度は、父親からまた殴られました」というようなあいさつがあり、笑い声に包まれて、同窓会が始まりました。

昔は悪いことを悪いとしていつもきちっと叱っていましたが、その先生が私だとしても、その一件については思い出せませんでした。

最近、古今未曾有、前代未聞の事件が頻発したり、人間らしい生き方を知らない若者も増えてきており、元教師としては、被告席に座らされているような思いです。

日ごろから、本来、学校と家庭のあり方は、表裏一体であると考えている私としては、今さら親が悪い、先生が悪いなどと言うつもりはありません。ほんの一部の人が悪いに決まっています。家庭教育の重要さは論を待たないが、昔は、その足りない部分を補うのが学校であり、教師でした。

現在、両者に共通して欠けているのは、叱る教育がなされていないということです。

まったく叱らないということは、間違いもすべて肯定したことになります。価値基準が狂っている大人に育てられた子どもは、不幸であり、一部の若者たちの言動は、すべて、大人がつくりあげた産物のような気がします。

海老名市長　亀井　英一

こも巻き病害虫駆除方法を実施

環境保全・薬剤不使用で試験的に

柏ケ谷小サクラなど22本ほか…

市では10月30日、アメリカシロヒトリなどの病害虫駆除を、柏ケ谷小学校のサクラなど22本と、河原口御手作第一児童遊園のヒマラヤスギ9本について実施しました。

今回は環境面を考慮し、試験的に薬剤不使用の「こも（わらを編んだもの）巻き」で行いました。柏ケ谷小では、全校児童らが身近な環境問題として、関心を持って見ていました。

※こも巻きによる駆除…冬に病害虫がこもの中に集まる習性を利用する方法。春、越冬した虫が動き出す前にこもをはずして駆除する。

なお、こもの撤去は、来年3月ごろに実施する予定です。

問　公園緑地課（内624）。

事業所・男女18チームが競う

屋内消火栓操法大会結果

▼女子チームは8チームが参加して日ごろの成果を競い合った（市役所会場で）

10月20日に開催された、第13回海老名市屋内消火栓操法大会は、市内事業所から18チーム（女子8、男子10）が参加して、日ごろの訓練成果を競いました。結果は次のとおりです。

○女子の部

最優秀賞＝自動車部品工業(株)

優秀賞＝富士コカ・コーラボトリング（株）海老名工場、医療法人神愛会宮澤病院

市長特別賞＝海老名市役所

○男子の部

最優秀賞＝ものみの塔聖書冊子協会

優秀賞＝日立ビアメカニクス（株）、（株）日立製作所海老名工場

市長特別賞＝（株）パブコ

その他女子の部、男子の部にそれぞれ個人賞が授与されました。

問　消防本部（☎231・0355）。

10日に「特設人権相談」

12月4日～10日・第53回人権週間

12月4日（火）～10日（月）は「第53回人権週間」として各種の行事が行われます。市では、人権擁護委員による特設人権相談を次のとおり開設しますので、お気軽にご利用ください。相談は一切無料で、秘密は守られます。

▽日時　12月10日（月）午後1時～4時　▽会場　市民相談室　▽相談内容　親族・近隣・悩みごと一般。

※人権相談は他に、毎月第4火曜日、午後1時～4時に市民相談室で行っています。また、人権擁護委員の自宅でも受け付けています。相談前に必ず電話連絡をしてください。市内の人権擁護委員は次のとおりです。

◆米山トシ子氏＝社家1120－1、☎231・8422

◆近藤淑子氏＝中野395、☎238・3947

◆鴨志田英江氏＝大谷3353－3、☎232・4694

◆土屋喜良氏＝柏ケ谷383、☎233・1982

◆山田憲政氏＝中新田152、☎232・6633

◆大西幸道氏＝国分北2－1340、☎231・5074

◆尾上髙穂氏＝中河内1191、☎238・3834

●他に各種相談ご利用を

市では、人権相談のほか、法律・登記・女性・不動産など各種の相談業務を行っています。日程は毎月15日発行の広報紙でお知らせしています。

問　市民相談室（内390）。

海老名むかしばなし

村人にとっては前代未聞の重大事である。住民の不安は募り、不吉の予感におびえる毎日が続いた。（中略）ある日のこと一陣の風とともに、耳が破れんばかりの雷鳴と稲光りが槻の大木に注いだ。強烈な雷鳴である。これと同時に木は裂けて燃え始めた。電光石火の早業であり、空洞内の大蛇は瞬時に焼け死んでしまっていた。人の智恵や力では及びもつかぬ業が人の敵を退治された。しかし神が宿るといわれていた御神木はこの犠牲になってしまったのだ（以下略）」と、具体的に述べている。

私も二十年ほど前、「広報えびな」の本欄に駄文を寄せている。その一部。

「神社の西北程近く『ダブ』といわれた大池があった。周りは一面竹やぶに覆われ昼でも薄気味悪いところであった。しかし池心へ向け東方から一本の板橋が架けてあり、付近の主婦たちの格好の洗濯場になっていた。ある時のことである。近くの農婦がこの池へ洗濯に行くといって家を出たが、夕方になっても帰って来ない。家の者が心配して探しに行ったところ、桶と洗濯物だけが置かれてあって姿が見えない。池に落ちて死んだのかと水底を探したがそれらしいものもない。それでたちまち隣近所をはじめ村中の大騒ぎになった。

大蛇の伝説が残る三島神社

それはかつてかの大蛇が人をねらったといううわさが立ったことがあったからである。てっきりそのうわさが現実化したのだとだれもが信じてしまった。『子どももあることだから是非無事で』という願いもむなしくとうとう農婦は家へもどらなかった。奇跡はやがて起きた。（以下略）」。

以上いくつかの話を総合するに、フィクションの面もあろうが、冒頭に掲げた〝うた〟まで生んでいることからしても、巨大な神木を住処（すみか）としていた大きな蛇が、落雷で焼け死んだということは事実であろう。海老名の「大ケヤキ」にも、青大将の太いものが住んでいたことからも、考えられる話である。

このうたの特徴は、一語一語の語尾に必ず「じゃ」と発音するように作詞してある点である。うたの意は、「社家では大蛇が焼け死んだそうだが、それはほんとうのことかいな」と、センセーショナルにその驚きを表現していると思う。他村の人が詠んだように受け取れるが、それは事件の起こった村名を示す必要があったからであろう。

（池田　武治）

電話で海老名の昔話が聞けます

12／12まで　第267話　風邪の厄払い

12／13～1／10　第268話　伊勢参りの話

☎233・3838（みんわみんわ）